ひとりひとりをつなぐ・むすぶ
OGU LinkA リンカ
追手門学院大学校友会 交遊誌

追大つながって委員会

vol.02

いざ、海外で勝負！

枠に縛られず、垣根を越えて。「新しい日本酒を世界に広めたい」と尽力する、酒造界のパイオニア。

「先輩がいると、しゃべりにくいですなぁ」。そう笑って話す橋本さんの取材に陸上部の先輩や後輩が駆けつけるほど、橋本さんの活動には、今や国内外から注目が集まっています。

ご実家は、大阪府高槻市でもうすぐ200年を迎える老舗酒蔵。橋本さんは卒業後、お兄様の片腕として家業の日本酒造りに携わりました。それから26年後、酒税法の規制緩和をきっかけに独立し「北新地ビール」という地ビールの会社を設立。この時「ビールを造るだけでなく、友人と見よう見まねでビール製造設備も作ったら、予想外でいくつも売れて」。これが、海を越えて韓国の醸造会社やミャンマーの国営ビールの製造元へも売れるほど好評を得ました。そして海外へ行くことが増え、ミャンマーには13年間赴任しました。

ここからさらに橋本さんの夢は、「英語圏で酒造りをしてみたい」と広がります。「洋酒の本場のヨーロッパには本格的な日本酒の酒蔵がまだないので、日本の酒蔵としてちゃんとしたものを作ろうと思って」。その拠点をイギリス・ケンブリッジに定め、現在は来年の夏のオープンを目標に、イギリス初の日本酒醸造所を作っています。

ケンブリッジ郊外の広大な敷地に建設中の英国初日本酒の醸造所。

「まだ構想の部分もあるんですけど」と見せてくださった完成予想図には、緑豊かな10万坪もの広大な敷地の中に酒蔵、レストラン、果樹園や宿泊施設、乗馬スペースなど、さまざまな施設が描かれていました。「ヨーロッパの小さな酒蔵をはじめ、日本国内の酒造メーカーもみんなここに集まって研究したり、広めたり、一緒に盛り上がっていけたらと思うんです。日本の学生さんに語学研修をしに来てもらってもいいですし、日本酒にまつわる食事や酒器などの焼き物を作る施設も作り、ここから日本の文化を広めていきたくて」。酒蔵に留まらない、日本文化や産業発信、人材育成のテーマパークが、いま、できつつあります。

この動きは、イギリス国内からも期待が高まり、注目されています。また、大手旅行会社などさまざまな企業からも声がかかり、橋本さんの構想以上の可能性が広がっています。

「追大の自由でおおらかな校風が、私の人生に合っていたように思います。学校ができて間もなかったので、自由である反面いろいろなことを自分たちで切り拓いていかないといけなかった。枠に縛られなくていいことを学び、楽しく恵まれた学生生活が過ごせました」。当時の追大の校風で育まれた気質で、柔軟におおらかに、新しい道を切り拓いて人生を歩む橋本さん。その歩みはイギリスを拠点に、これからさらに世界へ広がっていくことでしょう。

橋本 良英 さん
Yoshihide Hashimoto

1973年卒業（4期生）
経済学部 経済学科

株式会社堂島麦酒醸造所
社長

http://www.doujimabakushu.co.jp

Yoshihide Hashimoto

OGU LinkA ひとりひとりをつなぐ・むすぶ 追手門学院大学校友会 交遊録 リンカ

想像もしなかったあなたの自分史、追大からはじまりましたか？

現在の追大のホームページに掲げられているキャッチフレーズは、「想像もしなかった自分史がはじまる」。
今回、社会で輝きながら活躍されていらっしゃる追大の卒業生５人にこの質問をしたところ、答えは「Yes」でした。
追大で過ごした時間からその後の人生に影響を与えたものや得たもの、卒業後のご活躍などについてうかがいました。

力をつけて、逃げずに勝つ。追大の後輩やスポーツ選手の後ろ盾となり、若い夢の花を咲かせ続けるサポーター。

「追大の少林寺拳法部でいろいろ教えられた4年間は、その後の生き方の指針にもなりました。」。厳しかった部活の思い出話や社会に出て役立ったエピソードが、次から次へと飛び出す木村さん。社会に出て「あれができたなら大丈夫」と思うことで乗り越えられた場面がたくさんあり、「少林寺拳法部に入ってよかったと日々思って生きていますよ」と語ります。

木村さんは充実した学生生活を送る傍ら、お兄様が立ち上げた子供服ブランド「ミキハウス」を展開する会社を手伝い、卒業後は正式に入社しました。学生時代にスポーツへ情熱を燃やした経験を生かし、日本初の女子柔道部を創部。中学生だった田村（谷）亮子選子の指導やバックアップをし、女子柔道をメジャーにした陰の功労者となりました。その後創った卓球部には、福原愛選手や石川佳純選手なども在籍。オリンピック選手を100人以上も輩出するほど会社でスポーツ選手の環境を整え、支援、育成してきました。

そんな中、仕事でいろいろな家庭を回ってお母さん達と話しをしているうちに、いじめの相談をされたことがあった木村さん。そこで、近所の子どもを集めて少林寺拳法を教えました。「いじめられる子は、共通して下を向いていたんです。だから、立ち方や姿勢から教え、褒めて褒めて自信をつけさせたら、1年間でみるみる変わりました」。自信がついていじめられなくなり、お母さんからも感謝された時、「追大で少林寺拳法をしたことが人の役に立ってよかったと心から思いました」と振り返ります。

現在は、ミキハウスの売り場面積が少しでも広がるよう、全国の百貨店を回って営業をする毎日。また販売スタッフの健康管理も含め、店頭の管理やチェックも行います。時にはスタッフの悩みや恋愛相談に乗ることも。「健康で本当の笑顔で接客できるよう、プライベートも充実させてほしくて」。このようなお人柄からも、仕事で出会う企業の社長や役員から若い社員まで「力（りき）ちゃん」「リッキーさん」など、親しみを込めて呼ばれ、多くの人に愛されているようです。「人間関係を一番大切にしています。兄から名刺交換の時に役職名を見るなと教えられ、そこからどんな人にも同じ態度で接することができるようになって、いろいろな人と人間関係を深めていくことができました」

そんな木村さんの夢のひとつは、「お世話になった大学に何か貢献したい」ということ。「追大ですれ違った就職活動中の学生さんにミキハウスのことを聞くと『難しくて受けても受からない』と言われて、ショックだったんです。そんな後輩のために何かできればと思って」。そこで倍率500倍とも言われるほど人気のミキハウスの就職試験で、毎年追大生を採用するようになったそうです。

ミキハウスを世界にも広げていきたいという木村さんの想いを受けて、今後さらにたくさんの追大生やスポーツ選手が、きっと社会でキラキラと輝き活躍していくことでしょう。

木村 力造 さん
Rikizou Kimura

1978年卒業（9期生）
文学部 社会学科

三起商行株式会社（MIKI HOUSE）
執行役員 東京支社長
https://www.mikihouse.co.jp

ミキハウス

フットワークを軽くし、本物を見る。追大での学びを糧に、人もコウノトリも住みやすい未来をつなぐアドバイザー。

兵庫県豊岡市で生まれ育った北垣少年は、虫や魚を捕って遊び、豊かな自然を全身で感じていました。また、日本最後の野生コウノトリの生息地であったため、コウノトリに関する社会の動きが身近なものでした。その影響を受けたのか、大きくなって興味を持ったのは、自然や生き物たち。クモの研究をしている西川喜朗教授がいることもひとつのきっかけとなり、追大の門戸を叩きました。

入学後は西川教授が顧問を務める生物研究同好会に入会。「先生の調査の手伝いに行ったり、将軍山祭で展示をしたり、合宿で青春18切符を使って屋久島まで縄文杉を見に行ったり。学生時代ならではの活動ができて楽しく、充実していました」

卒業後は西川教授のつながりで大阪市立自然史博物館でアルバイトをして技術的なことを学んだ後、地元の豊岡に戻り森林組合に勤務。大学時代から在籍していたNPOが豊岡市立コウノトリ文化館を管理することになったのを機に、ここで働くようになりました。

お客様への説明や展示物の作成、淡水魚を専門とした生物調査や環境学習のフィールドワーク主催など、北垣さんの活動は多岐に渡ります。「説明して喜んでもらえたり、関心を持つようになってくださると、やりがいを感じます。環境学習で地域の子ども達がどんどん興味を持ってくれていることは『次世代が育っているな』と嬉しくなるし、ありがたいですね」。そう生き生きと話す北垣さん。「採った虫や魚を見て『おいしそう』と言う子がいて印象的だったのですが、社会学の矢谷慈園先生がよくおっしゃっていた『原点に立ち返ってみること』がまさにこれなのかなと、現場で実感することもあります」とのこと。続けて「『本物を見なあかん』『生き物としてピチピチ生きること』『人間も自然の中の一部だから、人間と自然を切り離して考えない』など、矢谷先生の言葉は強く残っていて、頭の中に基本として置いています」と今に生かされていることを教えてくれました。

独学での限界を感じていた北垣さんは、現在兵庫県立大学大学院で、生態学をより専門的に勉強中。「コウノトリも人間も暮らしやすく、自然全体で豊かに共生できるよう、いろんな地域ともつながって広い範囲で見て活動や研究をしていきたいです」。そう未来をまっすぐ見て話す北垣さん、実は「学生時代はあまり先のことを考えていなかったんですよ」と笑います。「大学当時からは想像もしなかった自分史に、今なっていると思います。たくさんの学びや今につながっているご縁が、追大時代にありました。将来どこでどうつながって新しい道が拓けるか分からないので、学生の皆さんには、人とのつながりを大事にしてほしいですね」

「たくさんの人にぜひ見に来てほしい」と北垣さんが言うコウノトリ文化館は、インバウンドで海外のお客様が増えているそう。北垣さんが思いを馳せる豊かな自然の未来が、コウノトリとともに世界へ広がることを願ってやみません。

北垣 和也 さん
Kazuya Kitagaki

2003年卒業（34期生）
人間学部 社会学科

豊岡市立コウノトリ文化館（NPO法人コウノトリ市民研究所）
自然解説員
http://kounotori.org/bunkakan/

豊岡市立コウノトリ文化館 Toyooka Stork Museum

大学時代のつながりが、財産となって。世代を超えて楽しく美味しい記憶を贈り、温かな思い出を育む、次世代の経営者。

「実は大学での思い出…そんなになくて（笑）」と話し始めた上杉さん。学外のサークルに入り、会社経営のシミュレーションのような日々で忙しくしていたため、その記憶が大きいそう。ところが話しを進めるうちに、次々とあふれてきたのは、追大での楽しかった思い出でした。「3回生の時、海外セミナーで1か月アメリカへ行ったのは、しっかり記憶に残っていますね。ほとんど英語が話せず通じなくて、ホームステイ先で筆談をしていたほどでしたが、それもいい思い出になって」。この時仲良くなった先生や学生とは、キャンパス内でも楽しい交流が続いたようです。また「ゼミでお世話になった西岡先生は、コミュニケーションや思い出づくりを大切にしてくださいました」と、楽しかったゼミコンのことや、語学クラスの仲間と一緒に旅行へ行ったことなど、懐かしい話が次々と飛び出します。

追大での日々を振り返り「学生時代に得たものは、今もとても生きているので、ぜひいろんなことを楽しんでやってもらえたらと思います。いい思い出をもらえた追大にとても感謝しているし、友達という財産も得ることができたし。追大はそれが作れる学校ですから」と在校生にエールを送ります。

また、大学時代に上杉さんは、いくつかのアルバイトを経験しました。そのひとつが、大阪に本店がある老舗ビアレストラン「ニューミュンヘン」。美味しいビールと唐揚げで舌鼓を打ちたいならここ！という関西人は、少なくありません。「創業者が祖父なんです。継ぐよう言われたことはないですが、いつか継こうという意識がどこかにありました」。その思いから、卒業後は入社。いくつかの店舗でいちスタッフとして、また主任として責任ある立場でスタッフをリード。新規店舗開店からすべてを担う店長も経験し、さまざまな苦労や悩みを乗り越えながら学びを得て、多くの経験を積んでいきました。「それぞれの店での思い出がたくさんあるんです。勉強したことが生かせて毎日が本当に楽しい、仕事ってこんなに楽しいんだと思えたことは、貴重な経験になりました」

現在は、社長をサポートしながら経営の勉強をしつつ、営業統括全般を手がけています。「社員の親族が入社してくれたケースがいくつもありますし、休日にアルバイトの子たちが呑みに来てくれることもあるんです。いい思いを持っていないとこういうことはないので、すごくありがたくて嬉しくて。地域や人とのご縁を大切にする会社だと思うので、これは良い伝統として残していきたいですね。店を大きくするよりも、地元に密着して長くみんなに愛されるような、みなさんにとって思い出の店になりたいです」と想いを語ります。

今も強い味方となっているという、学生時代に得た先輩後輩や仲間達。その支えを追い風に、楽しい思い出を増やしながら多くの人の記憶に残るお店が、上杉さんの思いとともに続いていくのかもしれません。

上杉 竜太郎 さん
Ryutarou Uesugi

1992年卒業（23期生）
経済学部 経営学科

株式会社ニューミュンヘン
代表取締役専務
http://www.newmunchen.co.jp

上杉竜太郎

追大での出会いと学びから叶えられた夢で。人々にやさしく明かりを灯しそっと支える、心と笑顔のパートナー。

「アットホームな雰囲気の中で、濃厚な時間を過ごしました」。そう学生時代を振り返る石井さん。将軍山祭で喫茶店をして利益が出たこと、ゼミでとったアンケートの解析を夏休み返上で頑張ったこと、ゼミ室で先生や仲間と交流を深めたことなど、楽しかったキャンパスライフの記憶が、色鮮やかに蘇ります。「今でも先生やお友達とお付き合いさせていただいて、食事会などしているんですよ」。中でもゼミの藤本忠明教授は、仲人なんだとか。「同じ学科の同級生が夫なんです。追大は、私の未来にたくさんの影響を与える場となりました」

そんな石井さんは、興味を持っていた心理学やカウンセリングについて深く学んだものの、世間ではあまり需要がなかったため、卒業後は病院へ勤務しました。子育てをしながら依頼のあった講師などを務めつつ、心理学の勉強はずっと続けたようです。

石井さんのこの状況に、転機が訪れます。1995年、阪神・淡路大震災の後でした。「心のケアを必要とされる方がたくさんいらっしゃって、需要が高まったんです。私に何ができるのか、どうしたらいいのか、たくさん考えました」。その時相談に行ったのは、追大でした。

「追大には、転機に必ず相談に行っていました。藤本先生や落合先生や井上先生にいろいろなアドバイスをいただいて、活動をしましたし、資格も取りました」。そのアドバイスをもとに、臨床発達心理士の資格を取得。「大学院の科目履修生になったり、恩師に見ていただいたり。常に勉強が必要なので、卒業後も追大にはたくさんお世話になっています」。こうして石井さんは、より本格的に、人々を心理面からサポートしていくようになりました。

また、時を同じくして女子大の相談員をしてほしいとの要請がありました。「夜遅くまで相談にお付き合いさせていただいて、食事会などしているんですよ」。中でもゼミの藤本忠明教授は、仲人なんだとか。「同じ学科の同級生が夫なんです。追大は、私の未来にたくさんの影響を与える場となりました」

そんな石井さんは、興味を持っていた心理学やカウンセリングについて深く学んだものの、世間ではあまり需要がなかったため、卒業後は病院へ勤務しました。子育てをしながら依頼のあった講師などを務めつつ、心理学の勉強はずっと続けたようです。

石井さんのこの状況に、転機が訪れます。1995年、阪神・淡路大震災の後でした。「心のケアを必要とされる方がたくさんいらっしゃって、需要が高まったんです。私に何ができるのか、どうしたらいいのか、たくさん考えました」。その時相談に行ったのは、追大でした。

「追大には、転機に必ず相談に行っていました。藤本先生や落合先生や井上先生にいろいろなアドバイスをいただいて、活動をしましたし、資格も取りました」。そのアドバイスをもとに、臨床発達心理士の資格を取得。「大学院の科目履修生になったり、恩師に見ていただいたり。常に勉強が必要なので、卒業後も追大にはたくさんお世話になっています」。こうして石井さんは、より本格的に、人々を心理面からサポートしていくようになりました。

また、時を同じくして女子大の相談員をしてほしいとの要請がありました。「夜遅くまで相談にお付き合いさせていただいて、食事会などしているんですよ」。中でもゼミの藤本忠明教授は、仲人なんだとか。「同じ学科の同級生が夫なんです。追大は、私の未来にたくさんの影響を与える場となりました」。追大が心の拠り所となっていた石井さんが、今度は多くの学生さんの心の拠り所になりました。卒業生がカウンセリング室へ石井さんに会いに来ることもあり、中には石井さんと同じ臨床発達心理士になるという学生さんもいたそう。母なる海のように広い懐で受けとめてくれる石井さんの優しさと笑顔に、落ち着きや癒しを感じて元気になった学生さんは多かったようです。

現在はフリーランスで心理カウンセラーとして多忙な日々を送られている石井さん。「心理職に就くという夢が叶ったのも、追大に行ったからこそだと思います。今の追大生にも、何でもいいから夢中になれることをして、悔いのない学生生活をしてほしいですね。パワフルに打ち込めるもので、やったという達成感を味わっていただきたいですし、それがあれば社会へ出た時に頑張れる源にもなりますから」。追大で叶えられた石井さんの夢に救われ、笑顔の花を咲かせる人が、きっとこれからもたくさん現れてくることでしょう。

石井 美津子 さん
Mitsuko Ishii

1977年卒業（8期生）
文学部 心理学科

臨床発達心理士
心理カウンセラー
サプリメント管理士

支部推薦 全国地酒自慢

表紙でご紹介した「酒」にちなみ、全国の校友会各支部自慢の「地酒」を教えてもらいました。地元の日本酒や泡盛をはじめ、酒にちなんだ場所や懇親で親しまれるものなど、各地の酒にまつわるあれやこれやが勢ぞろい。機会があれば味わってみるのはもちろん、愛飲リストに加えてみてはいかがでしょう。

東京支部 澤乃井

多摩川の上流の青梅市に蔵元がある「澤乃井」をご紹介します。ここの蔵元では見学後、多摩川の川辺で試飲を楽しむことができます。私も見学後、「澤乃井」の大吟醸をいただきました。すっきりとフルーティながら、後を引く美味しさがあります。

東京支部・支部長　島田 朗仁さん

東海支部 酒屋八兵衛

江戸時代から続く奥伊勢の造り酒屋・元坂酒造は、山田錦のルーツとも言われる古米「伊勢錦」を復活させ、山廃仕込みで造られています。伊勢志摩サミットの食中酒にも選ばれた銘酒「酒屋八兵衛」を、ぜひご試飲ください。

東海支部・支部長　高井 郁子さん

奈良支部 日本清酒発祥の地

諸説ありますが、奈良市南東部にある正暦寺が日本清酒発祥の地と言われています。ここで毎年１月に酒母の仕込みを行っており、県内９つの蔵元がその酒母を用いて日本酒を醸造しています。ぜひこの奈良の酒で、日本酒のルーツを味わってみては。

奈良支部・支部長　改正 大祐さん

滋賀支部 北島酒造 等

滋賀県は、古くから交通の要所として宿場も多く、山々に囲まれ良質な酒米とそれらの山系の伏流水を用い、江戸中期から酒造りが盛んになりました。現在も約５０件の蔵元が、個性ある日本酒造りに取り組まれています。

滋賀支部・支部長　近藤 眞弘さん

京都支部 佐々木酒造

京都の佐々木酒造は、二条城の北側にある、京都洛中に現存する唯一の蔵元です。俳優・佐々木蔵之介さんの実家でもあります。京都の造り酒屋というと伏見を連想されますが、起源は洛中、旧京都市内なのです。明治時代頃は、伏見より洛中の方が蔵元の数も生産量も多かったようです。

京都支部・支部長　岡 正樹さん

中国支部 大吟醸 極聖

岡山の宮下酒造は、数々のコンクール受賞歴がある酒蔵。中国地方初の地ビール「独歩」の製造も行い、全国地ビールコンクールで一位を獲得しました。ウィスキーの製造にも着手し、社是でもある「限りなき挑戦」を続けています。なかでも「大吟醸 極聖」は７回連続金賞を受賞しています。

中国支部・支部長　筒井 弘祐さん

和歌山支部 羅生門龍寿

県下各地に数多ある銘酒の中で、今回「羅生門龍寿」をご紹介させていただきます。羅生門は、食品の国際的な評価機関である「モンドセレクション」で、世界初 29 年連続最高金賞を受賞し、世界を制した紀州の銘酒です。ぜひ機会があれば極上の逸品をご賞味ください。

和歌山支部・支部長　山下 直也さん

兵庫支部 大黒正宗

日本一の酒処、神戸灘に佇む日本酒蔵・安福又四郎商店。ここでは酒造好適米の代表格・山田錦やその他兵庫県産の酒米と、西宮の宮水を原料に醸した酒造りをしています。自社ブランド「大黒正宗」は男酒と称される灘の日本酒の中でも飲み飽きしない味わいで、呑み手を魅了しています。

兵庫支部・支部長　官浪 伸次さん

四国支部 悦凱陣

四国の自慢のお酒は、琴平の丸尾本店が作る「悦凱陣」です。この「悦凱陣」は、純米無濾過生原酒という火入れも加水もしない、しっかりとした作りです。このため、開詮後常温で置くとさらに熟成され旨みが乗り、燗冷ましでも美味しいお酒です。

四国支部・支部長　中川 純さん

九州支部 COPPLA,St.Francis 等

当支部近辺に酒蔵がないので、糟屋地区では、校友とワインで懇親を深めています。そこでよく飲んでいるワインを紹介します（写真参照）。アメリカの Napa および Sonoma からの直送品です。年代的には 2003 年から現在までのもので、季節の料理に合わせて味わっています。

九州支部・支部長　岩崎 陽一さん

沖縄支部 久米仙

沖縄からは、琉球泡盛久米仙(30 度)をご紹介します。泡盛は、世界の酒造りでも珍しい沖縄土着の黒麹を利用しています。沖縄のスタンダードな飲み方は水割り（30 度の場合、泡盛 4 に水 6 が適量）ですが、炭酸水割り、果汁を入れたカクテルなどにしても美味しく召し上がれます。

沖縄支部・支部長　神崎 義光さん

※商品写真「澤乃井」「久米仙」はいずれもホームページより転載

交遊誌・ホームページ掲載希望者募集中（掲載対象） 国内外を問わず、追大卒業生で、校友会会員であること　（ジャンル）○グルメ（飲食・お菓子）○旅行（ホテル・旅館・旅行代理店）○住まい（不動産・住宅・相談）○医療・福祉・介護・保険○学校・予備校・塾・カルチャースクール○美容院・エステサロン○卸・製造など　（掲載料）無料　（ご注意）内容などにより校友会の承認が得られない場合、掲載いたしかねる場合もあります。予めご了承ください。また、届け出の連絡が取れない場合（例えば電話が通じないなど）、閉店などが認められた場合には掲載を中止させていただきます。（掲載申し込み）校友会ホームページからの申し込みに限りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

登録募集中!!「誰どこ何してるシステム」

http://otemon.org./daredoko/

「誰どこ何してるシステム」とは、追手門学院大学校友会が運営する会社やお店を幅広くご紹介しているサイトです。ご近所の校友のお店や会社なども見つけていただけます。追手門学院大学の校友だけへの特典が付くという嬉しい情報もあります。皆様、どしどしご登録をお願いします。

編集後記

今回LinkA２号を、無事に発刊することができました。ご多忙の中、ご登場頂きました方々、各支部長様はもとより、多方面からも取材へのご協力と多くの方々の推薦を頂きましたことに感謝申し上げます。
追手門学院大学を卒業され、大学で学んだことを実現し、様々な分野でご活躍をされ、限りないチャレンジを続けて輝いておられる方々にお会いし、情熱と勇気を頂きました。卒業されてからも、自分を育て、今の自分を創ってくれたと考えておられる、追手門学院大学への強い思いには感動を覚えました。
また、追手門学院大学の幅広いつながりは限りない財産であることにも気づきを頂きました。次回号も「追手門力」の素晴らしさをつなげてまいりますので、ご期待ください。

（追大つながって委員会担当〈写真左より〉：清水一朗・林元光広）

OGU LinkA ひとりひとりをつなぐ・むすぶ リンカ vol.02
追手門学院大学校友会 交遊誌

■発行・編集
追手門学院大学校友会『追大つながって委員会』
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
TEL：072-643-6135　FAX：072-643-6099
URL：http://ogu-koyukai.com　E-mail：info@ogu-koyukai.com

2017年11月1日　発行